



hida
広 報

ひだ

町 木



第 3 号
肥 田 町
郷づくり委員会
H8.11.1 発行

おめでとう

ございます。

菊花薫る十一月三日

当町、山岸長兵衛さんが、中小企業振興功労により、平成8年度秋の叙勲、勲五等瑞宝章を受賞されました。

心よりお祝い申しあげます。

郷づくり

温かい心のふれあいによって、明るい郷づくり推進について、先般「あいさつ運動実施宣言」を提唱し、これが推進に町民の皆様の積極的な運動が展開され、夫々のご家庭に、街角に大きな成果を挙げて頂きました。

申すまでもなく、「あいさつ」はことばと共に、人びとの豊かな心を醸成し、人と人とのあつい人間関係を創り出すもので、即ち、いっそう明るい郷づくりに貢献するものと考えます。今回の強調期間は終了しましたが、今後とも「あいさつ運動」の推進を図りたいと思いますので、皆様の深いご理解とご協力をお願い申し上げます。

なお、郷づくり委員会として、各事業部の計画に従い、種々の活動を実施いたしております。町民のみならずには、より明るい住みよい郷づくりの為、積極

的なご参加とご協力を賜りますようお願いいたします。

郷づくり委員会

委員長 藤野慶三郎

宇曾川堤防、河川敷の

ゴミ拾い実施

かねてより、環境事業部計画の宇曾川堤防及び河川敷のゴミ拾いが、去る11月10日(日)自治会役員及び郷づくり委員10数名で実施された。当初の予定では、久しく実施されなかった河川敷が対象であったが、堤防サイドの竹やぶ等に大量の不法投棄物もあり、これが除去に非常な労力を費やし、作業時間も予定をはるかに越すこととなった。

殊に、不法投棄物の処理については、数ヶ月前、宇曾川沿い数ヶ町自治会によって処分された後、再び心無い人による行為に一同断腸の思いであった。処分できるものを除き、投棄物は約トラック三台分を越えたが、役員一同の休まない努力で見違えるように整美された。不法投棄物については、彦根市の厚意により後日処分されることになった。

私たちは、美しい環境を保全し、住みよい郷づくりに力を合わせて努めたいものです。役員のみならず、大変ご苦勞さまでした。

郷づくり委員会

環境事業部

力を出しきった

町民運動会

十月六日(日)の第十二回肥田町民運動会は、快晴の秋空のもと、宇曾川堤の町民グラウンドに、幼い子供さんから老人会の皆さんまで、三〇〇人をこえる町民が集い、大変盛大に行うことができました。

皆さんが、やっぱり健康が何よりという喜びと、元気でゆこうの掛け声が、拍手と声援となつてこだまし、家族が、組が、町が、熱い輪となつて広がり、本当に楽しいふれあいの一日が創れたことと、体育部として、非常に嬉しく感じました。

組長さん初め、ご参加いただいた皆様のご協力のおかげと深く感謝いたしております。

今日、町づくりは人づくりからの、肥田町の運動の中にあつて、今後も、体力づくりを通し、健やかな町の人々の交流を目指し、お役に立てるべく頑張つて参りたいと思っております。



町民運動会(町民グラウンド)

稲枝地区体育大会終わる

去る8月25日に市民運動会が行われ、本年度のスポーツ大会も終了しました。肥田町の年度成績は、高齢者ゲートボール大会優勝を始め、ソフトボールAゾーン優勝、バレーボールCゾーン3位、市民運動会9位など総合成績は12位でした。来年度もさらに優秀な成績をめざして活躍を期待します。

体育部長

大村 吉継

老人会追悼法要



福寿会追悼法要(崇徳寺)

肥田町福寿会では、去る八月二十八日、本年度追悼法要が崇徳寺で執行されました。老人会結成(昭和三十六年)後、すでに故人となられた一〇二名の法要を、当寺住職・高瀬師によって勤められ、約七十名の参詣者で堂をうめた。勤行の後、高瀬師の法話「仏心」の中で、町史に残る肥田の姿にも触れられ、莊厳・有益のうちに終了しました。

福寿会長 宮川 春男

風 緑

新聞をちよつと見ようとしても、広告を見ようと思つても、眼鏡のお世話にならなければならぬ。いちいち眼鏡を取りに行かなければならぬので、ついつい御無沙汰になり勝ちになってしまいます。テレビを見る熱心さもなく、「何も見ないのはさばさばしてよい」などと口では負け惜しみを言いつつ、ただただ取り残されているのが現状の毎日です。このたび、広報に寄稿をと云うことで何を書いてよいのかさっぱり解らず、途方にふれてしまいました。

それで、新聞でも見てみようと思つて、十日分程の新聞を開いてみました。私にはなかなか理解出来ない事ばかりですが、面白い事もありました。中でも心に残つた事は、おすぎとピーコの、ピーコさんの方が目にガンができて、片方をとられました。そのピーコさんが、こんな事を云つておられました。「ガンになつてよかったと思つことは、命に限りあるということを知つたこと。今まで自分の事しか考えない、恥ずべき人生、すぐく頭の悪い生き方だった。ガンになつて始めて自分の生き方を考えた。自分の為に生きるのは、やめようと思った。少し視点を変えて生きてみたい。」と云つておられることでした。

私も今まで自分の事しか考えず、旅行とか編物とかいつて暮しておりましたが、七十年もの長い年月、皆さまのお陰で生かさせて頂いたのですから、何か方向を変えて、悔いのない日々を送って行きたいと思ひます。

肥田町 吉岡 スミ

親子で楽しむ伝承あそび

伝承事業部

水に親しむ夏、カンガルーグループのみんなは、親子でささ舟や風輪づくりなどに挑戦して楽しんだ。郷づくり伝承部のおじさんの指導で、それぞれ個性的な舟をつくり、池に浮かべたり、川を流したりして楽しい時を過ごしました。既製のおもちゃの氾らんする時、子どもたちに幼児期から戸外での素朴な手づくりの遊びを奨励してやることは大切なことでしょう。



夏休みの思い出

六年 元持 直美

今年の夏休みは、〇―157でプール水泳が中止になり、さみしかったが楽しいこともいろいろありました。

その中で、私のおじいちゃんや肥田のまちづくりのおじさんたちが、子どもの頃自分たちで作った色々な遊び道具の作り方を教えてくださいました。

八月三日に公民館に集つて、小学生のみんなと、お父さん、お母さんといっしょに、しの竹

で紙玉でつぼう、竹をつかつて、水でつぼうなどをつくり、外へ出て、ポンポンと紙玉をとばしたり、遠くまで水をとばして楽しく遊びました。おわりにお菓子ももらいました。

昔は自分たちで、いろいろなものを作って遊んだこともわかりとても楽しい日でした。

収穫感謝・文化祭

盛大裡に終わる

実りの秋、十月二十六・七日に町文化祭を開催しました。初日は秋雨の寒い日となり、作品の搬入等ご苦労をかけたが、出品者六十一名、総数一八八点で菊花など多くの種の出品が出揃い、いずれも丹精こめた作品で出品者の作品への熱い思いと、日頃の充実した製作ぶりが感じられ、見学者に大きな感動を与えました。また植木の持ち帰りのサービスも頂くなど、盛会のうちに終了しました。みなさまのご協力に深く感謝申し上げます。

私達は文化祭を通して、製作された方、ご覧になった方とともに、心の豊かさ、心のまるみのふくらみが、明るい健やかな明日の肥田町を映している様に大変うれしく感じました。来年もまた皆様から多数のご出品を頂きますようお願いいたします。 文教部長 成宮 為夫



町文化祭

自治会だより

みんなで住みよい、美しい郷へ

墓地擁壁

かねてからの懸案であった戦死者石碑裏の擁壁を設置し整えました。

口、裏川の底打

未整備であった登町の伊関みよ子氏宅と鹿島朝子氏宅間の裏川をコンクリートで底打を完了しました。

ハ、①カーブミラーの設置

登町から西町への出口へカーブミラーの設置を当局に要望し、今度設置決定をみました。近々完成します。

②町の周辺交通安全環境整備

高橋から宇曾川沿いの県道、日の本、8号線交差点の手前の歩道出入口の立樹が極めて見通しを悪くしている為、愛知川警察に切り込みを依頼、警察も交通安全上を確認し実施されました。

「作文入選おめでとう」

本年度彦根市青少年育成市民会議・彦根市教委募集の中学生「少年の主張」で当町の森田華奈子さんが「特選」・成宮早織さんが「入選」に選ばれました。

滋賀県同和問題啓発月間協賛、彦根市教委募集の「はーとふるメッセージ」小学校の部の作文に成宮剛史君が「特選」に選ばれました。(作文は別資料として添付します)

秋の花壇見事に咲きほこる!!

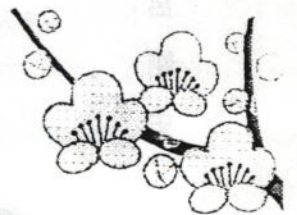
肥田町子ども会では、五月以来秋花壇用の苗を植付け、毎日灌水に施肥、除草に汗を流し続け、今年も花壇一ぱいに見事な花を咲かせました。公民館と調和し、町民のみなさん、道行く人びとの目を大いになごませていきます。 ごくろうさまでした。

「少年の主張」(作文の部)

特選

老人介護について思うこと

森田 華奈子



新聞やテレビで二歳の男の子が母親から小腸をもらって移植するというニュースを伝えていた。人の身体が移植の接木のようになるということだ。きっと命にかかわるような大変な手術なのだろう。もしも家の誰かがこのような大きな病気になってしまったらと思うと、早く治ってほしいという気持ちとともにさびしさ、不安がわいてきてしまう。

父に言うところ、
「そういう時のために、家族が安心して看病できるように健康保険という制度があるんだよ」と教えてくれた。

健康保険というのは、元気で働いている人々が、自分の収入の中から健康保険料を支払って自分達や家族の人達が病気にかかった時に自分達に代わって支払ってくれる制度だそうだった。だから私達が病院で支払うお金は、必要な費用の一部で、私達に大きな負担がかからないようにしているらしい。

これはとてもよい制度だと思う。皆の助け合いで、困った人が助けられているのだと思う。

こんなことを考えていると、新聞やテレビで公的介護保険制度を作るということを伝えていた。何だか難しい名前なので父に聞いてみた。

父の話によると、今、日本では高齢化社会が進んでいて病弱な人や寝たきりの人が増えていて、そうした人の中には、社会の核家族化もあって老人世帯が増え、誰も世話をしてくれる人がいない家が多いという。私の住む町でも若い人がいなくて、老人だけの家も少なくない。そういう人達が、自分で世話をしてくれる人を頼んだり、有料の老人ホームなどに入ったりするとたくさんのお金がいる。だから健康保険と同じように、若い間から保険に入り、誰もが病気になるたり動けなくなったりしたときに、そのお金を世話をしてもらおうというのだそうだった。それを国や町がやってくれるらしい。人間誰しも年をとって、いつかは動けなくなり、誰かの世話にならなければならない。これも皆で助け合って老後の心配を少しでもなくそうというのだそうだった。とてもよい制度だと思

う。

でも何かが違う。どこか間違っていないだろうか。

私は、介護は、愛情と優しさ、思いやりがとても大事だと思う。私が動けなくなったら世話をするのが大変だと思うが、家族の人に世話をしてもらいたい。老人の場合、長い間家族のためにがんばって生きてくれたのだから、それがあたりまえなのではないだろうか。家族が一生を終えるとき、最後まで、家族の暖かい眼で見守ってあげるのは当然なのではないだろうか。それを家族ができないから、国や町に人を頼んで、他人の手で世話をしてもらうというのは、家族の愛情がないからなのではないだろうか。

核家族化が進んで、老人の世話をする人がいなくなったというのなら、それをなくすようにすれば良いし、会社が休めなくて世話ができないというのなら、会社を休めるようにしたら良いと思う。社会のいろいろな仕組みが、老人の世話をできないようにしているのなら、そうした仕組みを直すようにするのが大事なのではないかと思う。

私も、祖父や祖母、父がもし動けなくなったら、私は姉と力を合わせて、世話をし、あげられる人間になりたいと思う。

入選

ボランティア活動について

成宮 早織

ボランティア活動について。これがこの間行われた、生徒総会の中心議題でした。私は始め、この中心議題を聞いて、一体、何を話し合うのか、また、話し合っただろうのかといったような、この中心議題に対して、疑問を抱いていました。それは、ボランティアというものは、話し合っただけで解決するものではないか、と思ったからです。

そこで私は、ボランティアとは本当はどんなことなのか、辞典をひいて調べてみました。その結果、自主的に社会事業などに参加し、無償の奉仕活動をする人だということが分かりました。そして私は幾つか自分に問いかけてみました。その内容は、私は今まで何回か、ボランティアと呼べることをやってきたけど、それは、どんなことだったか。それとそれは、本当に自主的だったかということです。まず一つめの問いかけの答えは、空きカンゴミ拾い、古切手や使用済みテレフォンカード集め、お年寄りへの寒中見舞の葉書をかいたこと、などです。どれも、小さなことばかりなので、本当にボランティアと呼べるかどうか分からないけど、このようなことをしました。そして、二つめの問いかけ

けに対して私は、重大なことに気づきました。それは、ほとんどが、自主的でなかったということです。例えば空きカンゴミ拾いなんかは、学校の奉仕作業で全員やることだったし、よく思い出してみると、その時私は、面どうくさいし早く終わってほしいという気持ちが強かったと思います。今考えてみると、それでは、せっかく、やっていても、充実感はなく、やってもやらなくても変わらないような気さえしてきます。

この自分の問いかけに対して私は、ボランティアは、ただやるだけでなく、心をこめてやらないといけないということに気づきました。

そして、生徒総会の当日、ボランティア活動について、議長が二つのことをみんなに提起しました。一つは、自分にも問いかけた、どのようなことをしたかということ。あと一つは、今後私達に、どんなことができるかということでした。この二つの問いかけに対してみんなは本当にいろいろな体験談や、やってみたいことなどたくさんのおい意見を出しました。そこで私は、びっくりしました。それは、こんなにみんな、ボランティアに対して、関心があることを知ったからです。そして、私も、何かできることがあれば進んでやろうと思いました。

私は、ボランティアなんて、もっと遠くのことだと思っていましたが、生徒総会をはじめ今までやってきたことなど、もう一度考えてみると、けっこう身近なところにあるものだと思いました。そして、どんなに小さなことでも、自分から進んで積極的に、心をこめてやることで、立派なボランティアになるような気がしました。だから私は、これから進んで人々の役に立てることを少しでも多くやっていきたいと思います。もし、小さなことでも喜んでもらえたら、その時は、私もすごくうれしくなるような気がします。そんなことが世界中を埋めつくせたらいいなと思います。

「はーとふるメッセージ」

作文 小学生の部



特選

なぜ言えなかったのか

成宮 剛史

あれは一年前の四年生のときでした。中休みが終り、ぼくは急いで上ぐつをはいて教室に向かって走りしました。教室に着いてあたりを見まわしました。まだ先生は来ていないなと思いほっとしていきすにすわりました。すると、そうじロッカーのところから声がしました。A君とB君がC君をいじめていました。ぼくは近づいてみました。ぼくは心の中で、

「やめたれや」と言っていたけどなぜか言葉では言えませんでした。なぜなら今度はぼくがわる口を言われるのがこわかったからです。クラスのだれかが、

「先生が来たぞ」と言いました。立っていたクラスメイトはすわりました。ぼくもいすにすわりました。C君をいじめていたA君とB君もあわててすわろうとしました。でも最後にいじめていたB君がC君にむかって、

「ぼけ死んでしまえ」と言ってC君の足をけりました。見ていた子もすわりました。先生が教室に入ってきました。

「C君、なにをしているの、早くいすにつきなさい」
C君はいすにすわりました。じゅぎょう中C君はなにか考えているみたいでした。

ぼくもその子のことを考えていました。ぼくはこう考えていました。
「C君、休み時間になったら先生にさっきのこと言うかな」と考えていました。C君の心の中は、

「休み時間に先生に言おうかなでも言ったらまたいじめられるだろうな」と考えていたかもしれない。その日の夜にぼくは考えました。

「C君だいじょうぶかな。自殺しないかな。」ってことを。ぼくは次の日、学校に着いたら急いで教室にむかっていききました。でもその子はいませんでした。朝自習が終っても、先生がきてもC君は来ません。健康かんさつをしていて先生がいました。

「Cくんは休みです。」
ぼくはなぜ休みなのか聞こうとしたけど言えませんでした。いじめられていたC君のときと同じです。なぜ言えないのかぼくは思いました。もしあのとき

「やめたれや」と一こと言っていたら、あの子はげん気で今日、学校にこれたかもしれない。ぼくはあの子のかわりに、ぼくが先生に言おうと思いましたが、三時間目が終わって五分休みに変わったときぼくは先生に言いました。すると先生は、

「わかりました。あしたC君がきたらみんなの前で言います」と言いしました。次の日の先生の話で先生がいじめられていたC君のことをみんなの前で言いました。それっきりいじめていたA君とB君はC君をいじめないようになりしました。でも五年生になりクラスがえをして別れてしまったのでその子の様子は、わかりません。そんなことがあってから、ぼくもいじめている人にだんだん注意ができるようになってきました。でもC君はだれもみていないところでまたいじめられているかもしれない。いじめがなくなつてほしいです。